

第2学年 国語科の実践

1 単元名 「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」

教材名 「お手紙」

(全 13 時間 本時 10 時間目)

2 単元目標

- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもち、登場人物に手紙を書くことができる。
- 場面の様子やがまくん、かえるくんの心情を想像しながら読み、物語を楽しむことができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ・・・「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈聴く・話すについての指導〉

「聴く」については、きき方名人「あ：相手を見る い：いい姿勢で う：うなずきながら え：えがおで お：終わりまで」を子どもたちに伝え、4月当初から意識させてきた。朝の健康観察の時さえ、なかなか目が合わず上の空である児童が多かった。指導を重ね、できている子を誉めるなどしてきた。すると、話している相手の方を見ながら聴こうとしている児童が増えてきた。さらに、うなずきながらなど、反応を示しながら聴くことが少しできるようになってきた。しかし、終わりまでしっかり聴き、相手の発言の意味を捉えているか、という点では、まだ指導が必要と感じている。

「話す」については、日直や係活動など定期的に人前で話す場を設けている。朝の会や帰りの会の司会など、何を伝えるかが決まっている場合には、どの児童も話すことができる。後期からは、日直も一人で行う。人前で話すときの声の大きさ、言葉をはっきりゆっくりと話すなど指導を重ねてきた。人前で話すことに抵抗があり、語尾が聞き取りにくい子や早口で聞き取りにくい児童もいるので、指導を重ねていきたい。授業中の話し合いになると「みんなに向けて話す」というよりも「先生に向けて話す」という児童が多くいる。そのため、教師の立ち位置を変えたり、「この質問は、誰に聞きたいのかな？」など声をかけたりして相手を意識させながら話すように指導しているところである。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

ノートに自分の意見を書かせ、教師がそれを見取り、その考えに自信をもたせてから話し合いの場を設けるなど、工夫を重ねてきた。国語の「スイミー」の学習では、初発の感想や疑問から学習問題を作り、話し合いを通して解決していった。「まぐろがスイミーを食べなかったのは、まぐろはスイミーのお母さんだったのかもしれないよ。」と言う意見が出た。子どもたちは、「えー。そんなわけないよ。」

「どうしてそう思ったの。」「だって、黒いから・・・」みんな、黙ってしまった。赤い魚の兄弟たちの中に一匹だけ黒い魚・・・「でも、文章にはお母さんだって書いてないよ！」という発言で叙述にもとづいて話し合いを進めることができた。物語を読み進めるにあたって、文章に書いてあるかどうかは、とても大切なことだと子どもたちは気付くことができた。さらに、「こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。」は、それぞれ何がこわかったのだろう。何がさびしかったのだろう。何がとてもかなしかったのだろう。という疑問を解決していった。「海の底が暗くてこわかったんだよ。」「まぐろに赤い魚が食べられてこわかったんじゃないかな。」「・・・でも、一生懸命に逃げてたから、気づかないんじゃないの？だって、絵を見るとスイミーだけ別の方向に逃げているよ！」「えっ？本当だ！」「すごい、よく見つけたね。」と言った会話がなされていた。子どもたちにとって、挿絵は文章を読み取る上で有効であった。

夏休みが明けて、夏休みの宿題であった絵日記を掲示した時に、子どもたちはお互いの絵日記をじっくりと読んでいた。少しずつ、他者に興味をもつ子が増えてきたことに喜びを感じた。

国語の「あったらいいな　こんなもの」の学習では、自分が想像した道具を絵に描きスピーチした。1日二人ずつスピーチをすることにした。聞き逃さないように、静かに聴く姿勢ができてきた。さらに、聞き取れない場合は、「もう一度お願いします。」と言い、かすかに聞き取れた場合は、聞き取った子がみんなに伝えるようになってきた。子どもたちのやさしさであると感じる。また「このロボットは、人間になることもありますか。」「人間だったら、『あったらいいなこんなものじゃなくて、いたらいいなこんな人』って言い方になるんじゃないかな。」など言葉を意識したやりとりが聞こえてくるようになった。

その一方で、他の子に話し合いを任せてしまって、考えることをやめてしまった子や話し合いの内容が理解できずにいる子もいる。どの子にも考える機会を与えたいので、話し合いを一度止めて、内容の確認をしたり、何を聞かれているのかを確認したりして授業を行っている。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年知識及び技能（1）言葉の特徴や使い方（オ）「身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。」（カ）「文の中における主語と述語との関係に気付くことができる」思考、判断力、表現力等C読むことの指導事項（エ）「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。」（オ）「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。」にあたる。

本教材「お手紙」は、ちょっとわがままで自分勝手ながまくんと、そんな相手に一生懸命に優しい言葉をかけてあげられるかえるくんと友情を綴ったお話である。

手紙を一度ももらったことのないがまくんが寂しさで心がくじけそうになるところ、がまくんをなんとか喜ばせようとしてかえるくんが内緒で手紙を出すところ、かえるくんが秘密を打ち明けてしまうところ、手紙の内容にがまくんが感動するところ、頼まれた手紙を運ぶかたつむりくんの懸命さなど、2年生にとって素直な心でお話の世界を想像し、楽しむことができる物語である。

この物語は、5つの場面で構成され、場面ごとに登場人物の行動や心情に変化が見られる。文章構成

も簡潔で分かりやすく、ほとんどが登場人物の会話文によって物語が展開されている。その会話文は、登場人物の気持ちや人柄がよく表れていると共に、「すぐやるぜ。」「くれなかったんだぜ。」などの児童の心をくすぐる言い回しも多く、児童にとって親しみやすい素直な表現となっているので、子ども達の多様な考えを引き出すことができる。さらに、登場人物に共感し、気持ちを想像しやすく、楽しんで何度も繰り返し読むことができ、読みを深めることにつながる教材であると考えている。

〈指導について〉

自分の思いをもって学習に臨むために、学習問題作りから丁寧に扱っていききたい。子どもたちは題名読みを行うことで、実際に手紙を書いた経験やもらった経験を思い出すであろう。その経験をお互いに話す中で、もらったときのうれしさや書いたときのわくわく感も共感できるのではないかと考える。

全文を範読し、挿絵を使いながら場面や登場人物などを確認していく。その際に、最初と最後の挿絵の違いに気が付く子どもは、多いだろう。2枚の挿絵を比較することで物語の内容や二人の関係性を考えるきっかけとなっていくのではないかと考える。十分に物語を味わった後に、初発の感想をもつようにしていきたい。今回も感想に「不思議に思ったこと」「いいなと思ったこと」「よかったこと」「すごいなと思ったこと」「えらいなと思ったこと」「おどろいたこと」などを視点として感想を書いていく。

交流する中で、「どうして、かたつむりくんに配達を頼んだのか。」「かたつむりくんでは、時間がかかりすぎる」という感想をもつ子どもは多くいるであろう。その感想をもとに、他の生き物と比べたり、がまくんの気持ちの変化を読み取ったりしながら、時間がかかるかたつむりくんだからこその「よさ」に気付かせるようにしたい。そして、かたつむりくんが配達役であることの意味を捉え、この作品のおもしろさに気付くようにしていきたい。

本時、子どもたちが解決したい問題となるのが、「「どうして、かえるくんは、お手紙を書いたことを言ってしまったのだろうか？」」である。かえるくんは、言うつもりがなかったのに、言ってしまった、という認識を子どもたちは、もっているのではないか。前時までの学習でかえるくんの行動を読み取り話し合う中で、子どもたちは、かえるくんの「やさしさ」に気付くはずである。がまくんとかえるくんのやりとりを確認し、二人の関係性を読み取っていけるようにしていきたい。

そして、今回「根拠を示しながら、自分の考えを表現したり、友だちの意見を受け止めて聴いたりすることで、かえるくんの気持ちに気付いていく姿」をひびき合いの姿としていきたい。そのために、前時までの話し合いをふりかえることができるような掲示物や読み取ったことを動作化するなど、イメージを共有化する機会を確保していく。一部の子の話し合いにならないように、内容を整理して板書する。大切な発言を書き留め、聞き返し、全体で確認する場面を作っていく。さらに、小集団での話し合いや、ワークシートを用いて、自分の考えをじっくり見直す時間を設けながら学習を進めていきたい

5 単元構想 国語科 「お手紙」

単元目標 ○文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもち、登場人物に手紙を書くことができる。

○場面の様子やがまくん、かえるくんの心情を想像しながら読み、物語を楽しむことができる。

事前の学習・・・「ふきのとう」で、登場人物の気持ちを想像しながら読み取りをし、音読発表会を行った。

「スマイミー」で叙述をもとに想像したことを話し合った。

題名読みをし、イメージが膨らみやすくなる。

- ・手紙、もらったことあるよ！・もらうとうれしい、・読んだことあるよ！他にもお話があるよ、
- ・手紙とお手紙、「お」がつくととても丁寧なかんじがする、・去年2年生に音読してもらったよ、

「お手紙」って、どんなお話だろう。①②③

登場人物を確認し、誰のセリフかをおさえる。
挿絵を見ながら、話の順番を確認し、場面を分ける。

感想を書く・感想を交流しよう

- ・がまくんは、お手紙を一度もらったことがなくてかわいそう。^{ふしぎ}
- ・かえるくんは、やさしい。・かたつむりくんに頼んだのがおもしろい。^{あずなめたの？}
- ・4日も待つなんで、すごい。何を話してたんだろう。
- ・最初の絵と最後の絵は、似てるけど全然ちがう。
- ・手紙を書いたあとに、かまくんの家にもどったの叫ぶしぎ^{あきあきてとばがおもしろい。}
- ・がまくんが、怒ってるのがふしぎ。
- ・かえるくんが、手紙のことをしゃべっちゃうのがおもしろい。
- ・「親愛」って言葉がいい。
- ・かえるくんが何度も窓からポストを見るところがおもしろい。
- ・「親愛」って何？
- ・「お手紙」だから、お手紙書きたい。

手紙をまわっているときの絵をじっくりみたいな。④

最初：二人ともかなしそう
花も枯れてる
しよぼんとしている

最後：ふたりともしあわせそう
花も元気になっている
二人とも肩を組んで笑っている

挿絵をよく見て、見つけたことを発表することができる。
【発言】

<学習感想>

- ・同じような絵なのにこんなにちがってびっくりした。
- ・どうして悲しい気分になっているのか話し合いたい。
- ・いつ、しあわせな気分になったんだろう。

二人のふしあわせな理由を自分の経験と結び付けながら考えることができる。【思考】

ふしあわせな理由が同じなのかな。^{リサ}

ふしあわせな理由が同じなのかな。⑤⑥

かまくんがーどもお手紙をもらったことかすのほ、どうしてだろう⑤

・友だちがゆかい、・友だちがゆかい

挿絵をじっくり観察し、見つけたことを共有させる。

でも、かえるくんは、親友って書いてあった

二人ともふしあわせだが、理由がちがっていることをおさえる。

がまくん	かえるくん
・お手紙が来なくてかなしいから	・お手紙をもらったことがないの知らなかったことがかなしいから
・ともだちがいなくて思ってるから	・ともだちなのに知らなかったから
・とてもふしあわせな気持ち	
・「だって、ぼく、お手紙もらったことないんだもの。」	2人の悲しい気分の理由を考えながら読む。
・二人ともかなしい気分で	

<学習感想>

- ・がまくんだけなのに、かえるくんまでふしあわせになった。
- ・かえるくんってやさしいな。・理由は違うけれど二人とも不幸せな気分になった
- ・かえるくんは、相手の気持ちがわかる人なんだ。・手紙を書いてあげてヤエイ

どうして、かえるくんは、かたつむりくんに手紙をたのんだの？⑦⑧

・手紙がとどくところをいっしょに見たかったから

・がまくんがよろこんでいるところを見たかったからじゃないかな。

・かたつむりくんは、ゆっくりだからじぶんよりあとからきてくれると思ったから

・たまたま、知り合いのかたつむりくんに会ったからたのんだんだよ

・自分でポストに入れるより、だれかにたのんだ方がいいから

叙述をもとに理由を考えることができる。【思考】

・家からとび出しました

・「まかせてくれよ」「すぐやるぜ」

・知り合いのかたつむりくんに会いました

<学習感想>

- ・ぼくだったら、鳥にたのむかもしれないな。早く届けてがまくんを笑顔にしたいから。
- ・「まかせてくれよ。すぐやるぜ。」って言ったのに4日もかかるなんて面白い。
- ・かたつむりくんに頼んだからおもしろいな。

かえるくんの家にもどったのは、どうしてかな。⑨⑩

・かたつむりくんが心配

↓

・でも心配なら

一緒にいけばいいのに

↓

・一緒にいるからたのんだはず

↓

・一緒にお手紙が来るのを

↓

・まわってほしいから

どうして、かえるくんは、お手紙を書いたことを言ってしまったの
 だろう？⑩⑪（本時）

⑩ ⑫

がまくんの気持ちを考えて	ついうっかり・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんにあきらめてほしくなかったからじゃないかな。 ・かなしんでいるのががまんできなかったからかな。 ・がまくんを元気にしたかったからだと思うな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ついうっかり言っちゃったんじゃないかな。 ・かたつむりくんがあまりにもおそかったからじゃない？だから、言っちゃったんだよ。

がまくんとかえる
 くんを動作化し、
 気持ちを考えられ
 るようにする。

がまくんを何とか励
 まそうとするかえる
 くんの気持ちを読み
 取っている。
 【読む】

- ・まどからゆうびんうけを見ました。
- ・まどから、のぞきました。動作化
- ・まどから、のぞきました。
- ・「ぼく、もうまっているのあきあきしたよ。」
- ・「ばからしいこと言うなよ。」

- ・かたつむりくんは、まだやって来ません。
- ・かたつむりくんは、まだやって来ません。
- ・かたつむりくんは、まだやって来ません。
- ・「かえるくん、どうしてきみずっとまどの外を見ているの？」
- ・「だって、今、ぼくお手紙をまっているんだもの」

<学習感想>

- ・やっぱりかたつむりくんがあまりにも遅かったから、待てなかったと思った。
- ・もう少し早くかたつむりくんが届けてくれると思ってた。
- ・自分と一緒に見たかったのに、がまくんがどんどんへこんじゃうから・・・
- ・でも、言ったことでがまくんは、もっと喜んでくれたね。
- ・言わなかったら、どうなってたんだろう。
- ・がまくんにあきらめてほしくなかったと思った。
- ・がまくんがふてくされていく姿を見たくなかったから
- ・言っちゃったけど、がまくんは喜んでくれたし、二人で楽しく待ってたからよかった。

手紙をまっているとき、どんなことを話してたんだろう？⑪⑫

かえるくん	がまくん
<ul style="list-style-type: none"> ・ぼく、いそいできみに手紙を書いたんだよ！ ・きみがお手紙をもらったことがないなんて、知らなかったよ。ごめんね。 ・早く来ないかな。 ・かたつむりくんにたのんだんだ！もうすぐ来るよ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのために、かえるくんがお手紙を書いてくれたんだね。うれしいよ、ありがとう。 ・なんだか、わくわくするね。 ・早く来ないかな。 ・だれがとどけてくれるの？ え～っ！

- ・二人ともしあわせな気持ちでそこにすわっていました。
- ・長いことまっていた。

今までの掲示物を掲示し、二人の間にあ
 ったやりとりを確認しやすくしておく。

文章や挿絵から手紙をま
 つ 2人の気持ちを想像して読
 んでいる。【読む】

<学習感想>

- ・かえるくんとがまくんは、本当に仲がいいんだなと思った。
- ・二人はいい関係だと思った。
- ・やっぱりかえるくんは、やさしいな
- ・がまくんの気持ちをわかってあげられるかえるくんみたいなおともだちがいたらいいな
- ・待つ時間も楽しめるのはいいな。
- ・がまくん、お返事書いたのかな？

手紙を書きたいな⑬

読み取ってきたことをもとに、自分の
 思いを手紙に書いている。【書く】

- ・お手紙を待っている二人に書きたい。
- ・やさしいかえるくんに書きたい。
- ・がまくんに書きたい。

登場人物の誰に書くのか、何通書くの
 かを一人一人が自己決定し、試行錯誤
 しながら取り組んでいけるようにす
 る。

<学習感想>

- ・かえるくんがやさしいから、かえるくん到手紙を書いたよ。
- ・二人が楽しそうだから、二人に書いたよ。

<本時の課題>

- ・時系列の抑えがあまかった。そのため、がまくん・かえるくんのどちらのことなのかが混ざってしまった子もいたように感じた。
- ・意見を活発に交流させるために、同じ意見の子どもたちで集まって相談するなどの方法も有効でありそうであった。

<本時以降の様子>

「お手紙」は、挿絵と文をアーノルド・ローベルが手掛けていることもあり、挿絵入りのワークシートを使用した。そのため、自分たちで吹き出しを描き、言葉を入れるなど、子どもたちにとっては取り組みやすかったように感じた。子どもたちは、最初、誰が主人公であるかも気になっていた。しかし、物語を読み進めていく中で、二人とも主人公である、と捉えていく児童が増えていった。単元のお手紙を書いた。がまくん、かえるくん、ふたり、かたつむりくんへと思いいいに書くことができていた。

